

平成 20 年度「高校交通教育の実践」指定校事業報告書

学校名	京都府立西舞鶴高等学校	学 科	普通科・理数探究科
校長名	井 関 康 宏	担当者	安岡 由紀乃
所在地	〒624 - 0841 京都府舞鶴市字引土 145 0773 - 75 - 3131 FAX 0773 - 75 - 5629		
生徒数	男子：403 名 女子：423 名 合計 826 名		
通学手段	徒歩：101名 自転車：582名 原付：8 名 バス 4 名 電車：128 名 その他：3 名		
特 色	昨年、創立 100 周年を迎えた伝統校で、地域の期待も大きい。「調和のとれた人格形成」を教育方針に掲げ、重点目標の一つに「健康安全とスポーツ」がある。本校生徒の約 7 割が自転車通学であるが、自転車置き場への通学路が狭く、特に始業前の混雑時の傘差し運転は非常に危険である。		

1. 実施状況

(1) 取組テーマ

「アンケート調査の実施・分析による生徒の実態把握に基づいた、教科・ホームルーム活動・立ち番等、日常の指導を重視した P T A との連携による交通教育の実践」

(2) 取組内容

教科・科目・ホームルーム活動・学校行事等を活用した交通教育の実践

ア 1 学期：道路交法改正に伴う交通安全指導（5 / 27 実施）

舞鶴西警察署交通安全課による講話（全学年対象）

イ 2 学期：自転車乗車のルール及び事故補償（11 / 18 実施）

ビデオ学習（1 年生対象）

ウ 3 学期：1 年保健授業での指導「安全な交通社会を目指して」

まとめ（2 / 12 実施）「1 年間で振り返って」（全学年）

アンケート調査の実施・分析

1 学期 7 月 7 日、2 学期 12 月 3 日、3 学期 2 月 12 日に実施

その他

ア のぼり旗の設置：各クラスに標語を募集し、学年ごとに標語を決定

イ 通学路での朝の立ち番：P T A と連携し、通学路 4 箇所毎月 2 回程度立ち番を実施

ウ 自転車小屋での生徒指導部の立ち番：

風紀委員（H R 役員）・運動部員も参加し自転車の整理

エ 雨合羽着用指導：

運動部員の合羽着用 風紀委員への呼びかけ 一般生徒へ

雨天時・降雪時の生徒指導部・運動部員・風紀委員による立ち番

## 2. 成果と課題

### (1) 成果

アンケート結果をみると、

1 学期には約半数の生徒が通学途中で「ヒヤリ・ハット」の危険な経験をしていたが、学期を経るに従いその数は減少し、3 学期には全体の4分の1になった。

その原因をみると、安全確認不足・対自動車・前方不注意の順である。いずれも、3 学期にはその数が減少した。生徒の安全に対する意識が向上したことにより、危険な経験の減少につながったのではないと思われる。

また、危険な経験が「ない」と答えた生徒の「気を付けていること」の中で、周囲への気配り・危険なときは停止・気を抜かないの数が増加していることから、生徒の意識の向上がうかがえる。

事故の経験が「ある」と答えた生徒の数も1 学期 34 人、2 学期 39 人、3 学期 17 人と減少している。2 学期は期間が長く3 学期は短期間であったことも関係していると思われるが、多少の成果ありと受け止めている。交通ルールの遵守についても、「守れた」と答えた生徒の割合は、1 学期 76%、2 学期 77%、3 学期 84%と伸びており、事故防止につながったと思われる。

雨合羽の着用率も、1 年生は「着用」・「ときどき着用」を併せ 50%と1 学期から高かったものの、2・3 年生においては 25%程度と低く、全体では 33%に止まっており、傘差し運転が 67%と大半を占めていた。

2 学期は車での送迎を項目に入れたことで、数値が若干変化したものの、3 学期には傘差し運転は 53%と全体の半数にまで減った。

のぼり旗の設置や雨天時・降雪時の立ち番等により一般生徒への意識改革が多少できたのではないと思われる。しかし、雨合羽着用指導の一番の成果は運動部員の着用率が大幅にアップしたことによる。部によっては 100%の運動部もある。そのことが一般生徒にも大きく影響し、「傘差し運転はしてはいけない」という空気は確実に流れ始めている。

昨年度までは、傘差し運転は「当たり前」の空気が流れていただけに、この意識の変化は今回の取組の最も大きな収穫である。

### (2) 今後の課題

「高校交通教育の実践」の指定を受けたことで、今まで大きな課題であった「自転車乗車のルール遵守」特に、「傘差し運転撲滅」に大きく一步を踏み出すきっかけをいただいた。年間を通じて、ことあるごとに生徒はもちろん教職員にも呼びかけを行いやすく、生徒の意識改革に大いに利用させていただいた。上記にも述べたように、自転車の傘差し運転に対する生徒の意識は大きく変化したと思われる。(車での送迎はかなり増加したが...)

しかし、3 学期のアンケートの「交通安全全般に対する意識の変化」で、「高くなった」・「どちらかといえば高くなった」と答えた生徒は全体の 25%程度と、思った以上に数字は伸びなかった。

今後は、傘差し運転禁止の空気の変化を目に見える形で実行に移すとともに、交通安全全般の指導に取り組んでいきたい。